

謹啓

昨日様は冬櫛

能くおこなう事致し

本年の旨者三朝の旨

雅世なりがふ

降るは年

冬櫛の竹竿のほど降

る年一木一木

鳴るはく句

忽ち雪ふれ

冬三回風の温

あり一木一木

りし

冬三回風の温

あり一木一木



西暦一千九百

年之秋姑何也

其のりる云々 新宅子

引移り以十年あるも職

人か入り居る所か以未

まじ混雑の為本

年ハ避る者も出来ぬ

都々以るも生れ乍

幸しく一日年々

か世より此体神成家

右是者千一也

心也十一年

ソノミ集

ハノ十

定中

大隈伯書

山本居園



神奈川 国府津 安莊
大隈重信殿

西左友



名古屋市南久屋所

上遠野宿所